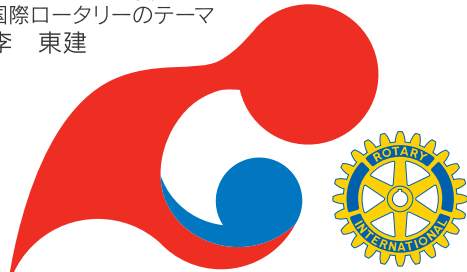


2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ
李 東建



Make Dreams Real
夢をかたちに

会長／齋藤清藏 幹事／遠藤光一

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2008▶2009 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

出席と参加、親睦と奉仕の 意識を高め地域に奉仕

プログラム

- 本日
来賓卓話「市立病院改革プラン」
事務部 部長 鈴木 鉄男 様
芳賀 博康 様
- 次週予定
来賓卓話「コホートピア構想について」
札幌医科大学医学部 教授 小海 康夫 様

会員誕生日
2月26日 平間 達也

ご夫人誕生日
3月1日 松田 陽子

No. 2363

第31回 2月25日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	0名
出免出席	0名
出席会員	43名
出席率	100%

前々会

第28回 1月28日

出席会員	34名
メイクアップ	3名
修正出席率	85.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 2009年国際交流新年交礼会が2月6日午後6時より留萌産業会館にて開催され、出席して参りました。
- 地区のオン・ツー・バーミンガム委員会よりお便りが届いております。第100回バーミンガム国際大会も少しずつ迫ってきており、準備も具体的に進んでいるとの事です。
- 3月4日に第1グループ大西ガバナー補佐の訪問があります。なお大西ガバナー補佐室長と渋谷深川RC会長も同行するそうです。
- ロータリー米山記念奨学会より2008年12月末に新たに功労者になられた方に盾が届いておりますので、お渡しいたします。
 - ・田中公一会員 9回目功労者
 - ・関野政人会員 2回目功労者

・河部 勲会員 1回目功労者

幹事報告

- 1) ロータリー米山記念奨学会寄付金納入明細書及びロータリー財団クラブ別寄付金明細書を受領しました。
- 2) ロータリー神戸国際囲碁大会の案内を受領しました。日時は3月7日・8日締め切りは2月27日です。参加希望者は幹事まで。
- 3) 前回発表しましたが、ロータリー手帳の申し込みが2月25日までとなっております。希望者は早めをお願いします。

会報受領先

・砂川RC No.1901号～No.1903号

3分間情報

会員研修委員会 平井委員
「第2510地区の設立記念日」

本日は創立夜間例会です。留萌クラブは昭和36年2月1日に創立しましたが、近隣クラブや交流クラブの創立年月日を知っておくのも、友好親善に役立つかもしれません。またクラブの拡大の進展期や停滞期を知ることもできます。ちなみに、東京RCは大正9年10月、大阪RCは大正11年11月です。

留萌クラブはスポンサークラブが旭川西クラブで、日本国内で416番目、道内で35番目のクラブとして誕生しました。2510地区では73クラブ中18番目です。札幌RCは昭和7年12月に東京RCをスポンサークラブとして誕生しましたが、1940年に戦争にてRIを脱会、1949年5月にRIに復帰しました。小樽クラブは昭和8年12月に札幌RCをスポンサークラブとして誕生し、札幌RCと同じく1940年にRIを脱会、1949年9月にRIに復帰しています。戦前に創立したクラブはその他、函館RCと室蘭RCで、函館が昭和9年10月、室蘭RCが昭和11年10月に創

立となっておりますが、どちらも札幌RC同様1940年に一時RIを脱会しています。その後、1954年5月・岩見沢、56年6月・札幌南、57年1月・苫小牧、同年8月・函館東、12月・芦別、58年8月・滝川、59年2月・深川、札幌東、11月・伊達、60年2月・小樽南、9月・札幌西、12月・赤平、61年1月・室蘭東、そして2月の留萌です。67年1月に妹背牛RCが29番目に誕生、ちなみに小平RCは74年7月で52番目、羽幌RCは79年5月で56番目です。現在最後の73番目のクラブは2005年7月の函館セントラルRCです。

ニコニコBOX

- ・創立48周年記念夜間例会おめでとうございます 創立48周年、新聞掲載されました。

齋藤会長

- ・米山功労者表彰されました 関野、河部会員

前回	511,500円
今回	6,000円
累計	517,500円

プログラム



WEEKLY REPORT

(前週のつづき)

留萌市長 高橋 定敏様

就任してから留萌港の利活用、旭川でも色々お話をさせて頂きました。旭川は韓国との航路を開き、また台湾との定期的なお客様を迎えています。旭川動物園を中心に元気なようです。そんな中で旭川と留萌市とが経済界の交流を深めながら、旭川の経済界、旭川の企業、旭川の農業地帯をかかえる上川が、それぞれ留萌港の利活用についてどういう航路を開く事が出来るか、そう言う意味で旭川と留萌というのは今まで以上に深い関わりを持たなければならないと思います。

いま総務省では、定住移住構想と言うものを掲げています。5万人以上で、最低4万人以上の都市が中心となって地域への定住を図るための施策を共同してビジョンを掲げ、行政として計画を作る。それに対して総務省が交付税的なもので支援をしようという施策が生まれました。これは鳩山総務大臣が考えた鳩山プランの中の1つで、私たち留萌は人口的に中心都市にはなれませんが、旭川を中心として考え、留萌市も定住移住圏構想の中では留萌港の利活用、留萌の海浜地帯、海辺の空間を旭川市民の皆さん方に利用していただくような方向で考えており、この構想の中に旭川として留萌を取り入れてもらうように働きかけています。留萌の海の港と旭川の空の港を結び、相互利用する事でこの地域が発展出来るように考えています。社会資本をしっかりと共有しながら新たな展開が図られればと思っています。経済が疲弊している中、なかなかホームランやヒットを打つのは難しいが、野球で例えると若松さんのようにこつこつヒットを重ね、ヒットが打てなくてもスクイズでもいいから先を目指すように、留萌の皆さんの意識を変えていければと思っています。

私も市長に就任して3年が経ちます。1年目は留萌の将来をしっかり担っていただけるようにと若い世代の方々に奮起を促し、ネットワークを構築しました。その中で、商工青年部がまちあかりという事業に毎月取り組んでいます。また、留萌青年会議所では留萌食の駅構想等を



第30回 2月18日(水) 天候/雪

まとめて色々な物を行政に提案しています。農業青年部ではヘルスツーリズムというか子供達に農業体験をして頂き、また農業の環境、そこに住む生物を体験していただくと言う事で、この活動が全道の農業青年部の大会で賞を頂きました。また、うまいっしょるもい市を継続して開催している漁協青年部の方々も、漁協青年部の大会で賞を頂いております。若い人たちの夢は、色々な意味で価値がありますので、その夢を大切にしていく。行政としてもしっかりとサポートしていくつもりです。若い人が元気の無い街は私としても辛いものがありますので、若者のエネルギーを引き出すために若者に呼びかけ、そして2年目には音物語として、留萌の先人である佐藤勝先生や、森田公一先生などの音楽の先生にいただいた、音楽を通じて市民の心を一つにして、厳しい時代を乗り越えるべく元気を引き出すようにし、3年目の昨年は食物語という事で、留萌にある食材をテーマに捉えました。皆さんご存じの通り、留萌のお米はここ数年連続して全国的な賞を頂いております。なぜ留萌のお米がおいしいのか。なぜ低タンパク米なのか。なぜマグネシウムが多いのか。それはやはり、この大地が与えてくれためぐみですので、市民にこの地元の食材を知らしめ、食は生きることに直結しますので、その重要性和素晴らしさを市民に認識してもらう事に重点を置きました。

人生健康がなにより、健康だからこそ楽しい生活ができる。財政再建する中でなにより大切なのは市民の笑顔だと思っております。市民の一人ひとりの元気、留萌の海と大地のめぐみを大切にすることに力をいれました。

4年目の今年は、健康家族というテーマを掲げ、21年度予算の中では、健康家族という事で市民から悲しみをなくしていこうと思っております。私も市長に就任してから親友を亡くしました。なくなる前に「すっかり足手まといになった」と言っていました。私はその時の言葉が今でも耳から離れません。そこで今年は家族からその悲しみを取り除くべく、健康をテーマに市民が健康に暮らす街を目指すとし、市民すべての人

に健診を受けていただき、そのデータを利用するコホート事業を立ち上げました。本日は財政危機を乗り越えるというテーマでしたが、あえて数字に触れる事は避けました。私としても危機的というより、修羅場の財政再建になってしまいました。しかしプール事業をやめて子供達と会った時が一番つらい状況でした。20人の子供の中で、途中シクシク泣く女の子がいて、その女の子の声が耳から離れない状況でした。でも、後からその子供の書いた手紙を読んだのです。この手紙で最後にします。

高橋市長様

私は小学校1年の時から水泳を始めました。今年で5年目です。この5年間沢山の練習をして来ました。練習が辛くて涙が出たときもあります。きっとこの努力は将来に役立つと思います。

お願い、市の人たちのために頑張ってください。

この様な手紙でした。小学校5年生でした。他の19人の子供達はみんなプールを残して下さい。夢を奪わないでください。私は5年間これだけ努力してきました。オリンピックを目指している夢を壊さないでください。みんなその様な手紙でした。でも彼女だけ、一人だけ「私は5年間頑張ったけど、今は我慢できる。だから市民のために頑張ってください」という手紙でした。あとから泣いていた理由を聞いたところ、プールに来ていたおとうさん達が物凄い勢いで私(市長)を攻め立てたものだから、市長さんがかわいそうだという事で涙を流したそうです。

私はその子の涙をしっかりと受け止め、固い決意で財政再建を図りながら経済の活性化に向けて、厳しい指摘を受けていますが、10年・20年そして、50年と留萌の夢をかたちにかえる国際ロータリーのテーマに沿って、頑張っていきたいと思っております。